

令和4年度浦安市教育委員会1月定例会会議録

浦安市教育委員会

令和4年度浦安市教育委員会1月定例会

- I. 日 時 令和5年1月12日(木)  
開 会 午後3時00分  
閉 会 午後3時45分
- II. 場 所 市役所9階 市議会議事堂第1委員会室
- III. 進 行 教 育 長 鈴木忠吉
- IV. 出席委員 教育長職務代理者 宮道 力  
委 員 宮澤 ミシェル  
委 員 吉野 則子  
委 員 影山 純二
- V. 出席説明者 教 育 次 長 醍醐 恵二  
教 育 総 務 部 長 丸山 恵美子  
教 育 総 務 部 次 長 榎 伸一  
教 育 総 務 課 長 宇田川 順子  
指 導 課 長 石川 三佳  
千鳥学校給食センター所長 平林 俊明  
生涯学習部長 増田 丈巳  
生涯学習部次長 森田 和徳  
生涯学習課長(青少年センター所長) 北嶋 純代  
生涯学習部副参事(郷土博物館長) 金子 義則  
中央図書館長 曾木 聡子  
青少年課長 飯塚 信広
- VI. 傍 聴 人 1名

## VII. 案 件

### 第1. 会議録の承認

1. 令和4年度浦安市教育委員会11月定例会会議録の承認について

### 第2. 教育長からの一般報告

### 第3. 審議事項

### 第4. 協議事項

### 第5. 報告事項

1. 教育委員会共催・後援行事一覧
2. 令和4年度浦安市子ども作品展開催報告
3. 令和4年度第2回浦安市学校給食センター運営委員会会議開催報告
4. 令和4年度第4回定例社会教育委員会議開催報告
5. 浦安アートプロジェクトワークショップ「ポンプ場」から浦安の未来を創造してみよう開催結果報告
6. 令和4年度 企画展「浦安の海苔養殖」開催案内
7. 令和4年度第2回図書館協議会開催報告
8. 浦安市青少年健全育成標語コンクール表彰式

### 第6. 教育委員からの一般報告

### 第7. その他

開 会 (午後 3 時00分)

鈴木教育長 それでは、これより令和4年度浦安市教育委員会の1月定例会を始め  
る。

議事に入る。

議事の第1. 会議録の承認である。令和4年度浦安市教育委員会11月  
定例会会議録について、承認いただけるか。

(「はい」の声あり)

鈴木教育長 異議がないので、令和4年度浦安市教育委員会11月定例会会議録につ  
いては承認された。なお、会議録の承認に当たり、会議録の署名を宮澤  
委員にお願いする。

次に、議事の第2. 教育長からの一般報告に移る。私から報告する。

コロナウイルス感染症の発症から丸3年が経過し、令和5年が始まっ  
た。昨年の3学期の始業式の日は、大雪の影響があったが、今年は天候  
にも恵まれ、穏やかなスタートができたと思っている。昨年もコロナ禍  
であったが、委員の皆様から適切な助言や意見、励ましの言葉等をいた  
だきながら、学校現場の実態に応じて対応をしてきた。改めて感謝申し  
上げ、本年もよろしく願います。

初めに、昨年末にかけての児童生徒の表彰があったので報告する。税  
についての作文表彰では、浦安市長賞で堀江中学校3年の中川博貴君が  
「税金の上に成り立つ私たちの当たり前」、浦安市教育委員会教育長賞  
として堀江中学校3年、近野涼大君が「繋ぐタスキ」、浦安市納税貯蓄  
組合連合会会長賞として明海中学校3年、服部美優さんが「誰かの未来  
のために」で受賞された。

続いて第72回社会を明るくする運動の作文コンテストの表彰では、浦  
安市保護司連絡協議会の会長賞、これは自動的に千葉県推進委員会へも  
推薦されたものであるが、日の出中学校1年生の葛原和樹君の「障がい

のある人と接することに戸惑ってしまう自分について」という題名で、また、浦安市保護司連絡協議会長賞として、浦安中学校1年、秋元優那さんは「支える心」、堀江中学校1年、平見蒼空君が「自分にできること」、見明川中学校3年、村山慶君は「共生社会に必要な理解」、入船中学校3年、樋口理帆さんは「心のオアシス」、富岡中学校3年、飛田千遥さんは「幸せになる権利」、美浜中学校1年、安藤佑馬君は「今、自分にできること」、明海中学校2年の和田莉奈さんは「思いやりの定義」、高洲中学校1年の大迫愛佳さんは「今こそ思いやりの心を」、東海大学付属浦安高等学校中等部の1年、坂本凌雅君は「友達への第一歩」という題で、それぞれ受賞された。いずれも実体験に基づいたことを純粋に書かれており、学校で学んだ内容をさらに自分なりに調べたり感じたりしたことを作文にしたもので、感性豊かな中学生らしい思いが込められ、とても感心した。

2点目は、昨日、校長会議で話したことを紹介する。「本年度の教育課程の実施状況と課題を明確にする学校評価を」として、そのためには、先を見越して、今行うべきことを実行すること、学校評価の狙いは、本年度の教育活動の成果と課題を踏まえて、次年度の学校経営の方針や方向性を定め、より質の高い教育計画を作成することにあると話した。年度末に正しく実態を把握しているからこそ計画ができるということで、ここに教育には大切な継続性、連続性、また持続可能な学校経営が存在する理由だということを経験者の方にも話し、来年度の計画をお願いしたところである。

そのときに、偏った見方、バイアスに十分留意することも話した。一例として、これは立志塾での市長の話だが「浦安駅と新浦安駅と舞浜駅で、年代別人口で若い人が多いのはどこであるか」という問いが出された。立志塾の子ども達は、「舞浜や新浦安の方が若い」と答えた。人口が増えているところはどこかというデータを見れば、一目瞭然で、浦安駅であることが分かる。これは新浦安、舞浜が若いという思い込みである。日本社会では、共働き夫婦は既に7割5分を超えている。本市の幼稚園、こども園は、既に全ての学級が1クラスである。夏季休業日に児

童育成クラブを利用している低学年の子ども達は7割ほどいる。千葉県の調査では、スマホの所持率は、小学生が50%を超えている。全国、千葉県では、問題行動調査のデータだが、低学年の暴力行為が増加傾向にある。つまり、私たちは、子どもを取り巻く社会環境が大きく変わっていることに気づかなければならない。私は、教育課程カリキュラムの改革はまさに今実施しなければならないことだと思っている。

最後に、1月5日の私の出勤時の出来事を紹介する。大きなリュックサックを背負った小学三、四年生ぐらいの女の子が、教育長車の運転手さんが車を止めて、横断歩道を渡るように合図を送ったことに対して、頭を下げて横断した。さらに、横断歩道を渡り切った後にも、こちらに体を向けて頭を下げた。思わず「この子、偉いね」と運転手さんとともに声が出た。浦安の子ども達が素直に育っているなど感じ、とても気持ちのいい朝の出来事だった。こうした何気ないほっこりとした行為を見つけて、褒めて、紹介してあげてほしいと校長先生方にもお願いしたところである。

年初めであるが、年度で言えば年度末の3か月を切ったところである。教育委員会としても、各事業の進捗状況を踏まえて、取り残しのないよう進めたいと思うので、委員の皆様にも、何とぞご意見等よろしくお願いする。

以上、私からの一般報告とさせていただきます。

次に、議事の第3．審議事項及び議事の第4．協議事項に移るが、本日の上程はない。議事の第5．報告事項に移る。報告事項については、配布した資料をもって報告とさせていただきます。

報告事項に対する質問を受け付けるが、委員の皆様、何かあるか。

宮道委員　浦安の海苔の養殖について、ここ数年報告いただいているかと思うが、私の個人的な感想としては、各学校の海苔すき体験など、取組が非常に広がっていったような印象を受けている。これをSDGsなどに絡めながら、環境教育といったことも含めながら広がっていくと、より地に足のついた教育コンテンツになるのかなと思った。

鈴木教育長     ありがとうございます。今日のニュースで、海苔の生育状況がよくないということで心配されていたが、この事業では大丈夫なのだろうか。

金子郷土博物館長     海苔の収穫は、例年、12月からスタートする。その頃に取りれる海苔が一番の旬という形になる。今回、漁協に確認したところ、三番瀬の海苔は、11月頃、一度海苔の網を張ったが、その頃に水温が上がったため、一度張り替えを行ったということである。その後は水温が下がったので、今回、体験で使う予定の海苔は全て頂くことができた。

鈴木教育長     宮道委員が述べたように、ある意味、海苔の養殖は、環境に一番影響されるので、環境学習にはもってこいだと思う。

体験を行うのは小学4年生なので、単に体験だけで終わることなく、総合的な学習につなげられるようにしていけるといいかなと思う。

それでは私からだが、「浦安アートプロジェクトワークショップ『ポンプ場』から浦安の未来を創造してみよう」は、この後の企画などはあるのか。

北嶋生涯学習課長     今後の取組としては、令和4年度中、2月下旬にドキュメンタリー映像作品の上映展を企画しており、これから広報等に載せて、市民の募集を開始する。これは、夏ぐらいから東京藝術大学と連携している中で、東京藝術大学の社会人の「DOOR」というプロジェクトがあり、そこの方々が市内でインタビューをしながら、浦安の水をテーマに撮影を行うという映像作品の上映を考えている。会場は市民プラザの市民ギャラリーを予定している。

宮澤委員     私もこのポンプ場のチョークで描かれたものを見てきた。チョークということもあって、現在は上だけ残っているようだった。

北嶋生涯学習課長     チョークなので現在は消えている部分も多くあるが、また描きたくなるという点が今回の狙いということで考えている。

鈴木教育長　もともと一過性で終わるのではなく、これをムーブメントにしていきたいので、続けていきたいと思う。

宮澤委員　給食センターについてだが、牛乳の飲み残しは今、大変な問題になっているのか。

平林千鳥学校給食センター所長　牛乳の飲み残しについては、給食センター運営委員会で指摘があった。これは、学校で廃棄せざるを得ず、流し捨てるのだが、児童生徒、もしくは配膳員がそういった処理をすることになっており、廃棄してしまうところが子ども達の目につくということがどうなのかという点で意見が出ていた。

鈴木教育長　飲み残しを結局、子どもが自分で捨てているので、これが教育的によくないというところの指摘なのだろう。確かにそうなのだが、隠れたところで誰か大人が処理すればいいという問題でもないと思う。それこそ、さきほどの環境問題につなげてほしいとも思う。現在、処分の仕方として、再利用はできなかったか。

平林千鳥学校給食センター所長　牛乳そのものは液体であり、それをリサイクルしているということがあまりないもので、現在、再利用の方法がない状況である。

鈴木教育長　そこが長年の課題で、今、リサイクルだとか環境の問題を考えたりしたら、少し考えていかなければいけない問題だと思う。

ほかにはよろしいか。

それでは、次に教育委員からの一般報告になるが、成人式の感想も含めて、お願いしたいと思う。

影山委員　私からは2点である。

1点目は成人式の件だが、本当にありがとうございました。実行委員の提案という形でダンスをしたわけだが、やはり人間というのは、体を



動かすことで何か学んでいくのかなということを改めて感じた。自分で教えていてもそうなのだが、机にずっとくっついて勉強している、それはある意味、人間にとって自然ではないというか、やはり体を動かしながら何か覚えていったりすることが必要なのかなということを改めて感じた次第である。したがって、小中学校を参観して回っているときはいつも、どのくらい動いて勉強しているのかなという視点で見たりしているが、やはり昔と違って、徐々にアクティブラーニングもそうだが、いろいろな活動が含まれてきて、そういうことが子ども達の助けになるのかなと思った。非常にいい式だったと思う。

もう1点は、年末に幸福度の学会があり、そこに参加したことで1つ伝えたいと思う。テーマとしては、学校の先生は子どもの将来にどれくらい影響を及ぼすのかという研究である。

日本にはデータがないのだけれど、イギリスの場合だと、子どもの小学校のときの先生や成績など、それをずっと積み重ねていって、そのデータを毎年取り、同じ人間を20歳とか30歳においても追跡調査して、大学に行っているのかとか、幾らぐらい稼いでいるのかななどを調査している。したがって、例えば、私が小学生のときの成績や、20歳のときに行っている大学、所得などそういったデータが全部分かるようになっている。そのイギリスのデータ、パネルデータと言うが、それを使うと、20歳における大学進学率や、どういう仕事に就きたいかというような期待、あるいは“risky behavior”と言うが、たばこや薬物の使用に対して実は先生が影響を与えているとのことである。したがって、いい先生に当たれば、その人は将来大学に行って、たくさん稼ぐかもしれないし、逆に悪い先生に当たると、大学に行かずに、もしかしたら薬物なんかには手を出してしまうかもしれない。そういう研究結果が出ていたので、やはり先生というのは本当に重要なのだと思った。一人一人の将来にそれだけ影響を及ぼす力を持っているのが小学校の先生なので、何とかそれを助けられるような形で、この仕事を全うできたらと思っている。

鈴木教育長      ありがとうございました。小学校のときのデータというのはどういう

ものなのか。人への影響とは、要素が多くあるので、単に先生から受けた影響だけを取り上げてこの結果になるということも難しそうに思った。

影山委員　　そうなるので、ほかのことも条件付きということでコントロールしている。学校での成績や自分の先生、あるいは親の職業とか親の所得、そういうものも全て含まれている。それが毎年積み重なり、ある一定年齢以上では成績ではなくて所得とかそういうのが入ってくることになる。大人になってからの所得とか、大学に行っているかといった結果が、子どもときの先生、自分の成績、あるいは親の職業、そういったものからどういう影響を受けているかというものを全て含めて分析している。その中で、先生が誰だったかということは実は影響が残っているという結果が出ていた。

宮澤委員　　イギリスの研究ということだが、スポーツも一緒である。海外では、例えば、親がサッカー選手で、生まれてきた子がサッカーをしていたら、15歳ぐらいまでは必ず面倒を見る。それは親がどういうことをしているのか、どのような理由で引退したのかといったデータがあって、運動の場合は能力が出てくるのが早かったりするため、そこまでは必ず面倒を見ている。今話を聞いて海外でのデータ分析の扱われ方が理解できた。

影山委員　　データがそろっているので、そういったことが簡単にできるのだろう。親の効果というのは当然いつまでも残るし、学校の教員の効果も残ることになる。

鈴木教育長　　イギリスはそういったデータに基づいて行うとのことだが、日本は何となく感性とか情操とかという部分について言われるように思う。

宮澤委員　　それも間違いではないと思う。

影山委員　　8割ぐらい当たっていると思う。それはどうしてもデータでの裏づけ

がない部分でもある。

鈴木教育長     ありがとうございました。宮澤委員、続けて成人式はいかがだったか。

宮澤委員     天気も良い中で成人式が行われて、ミッキーと仲間たちが出てきてくれたところで盛り上がり、こういう催しは浦安独自のものだなと感じた。そこからただ単に二十歳の誓いだとかではなくて、イスに座っているので上半身を使って踊ったりするという事は、何か違うことを自分たちがやりたいだとか、自分たちでトライしている姿なのだと思う。そういった姿勢を認めたいし、実際に自分たちも味わって、新しさを感じた。もちろん、自分たちは成人式の形を戻したいという世代が出てきてもいいし、本人たちが何をしたいのかをこれからも大切にしてもらえたらいいと思う。

鈴木教育長     事務局、今、宮澤委員が述べたように、今年の成人の子たちは、これまでの二十歳の誓いの形をあえて変えた理由があるのか。

北嶋生涯学習課長     毎回実行委員会形式で、実行委員が集まってどのような形にするか考えており、オリエンタルランド社の東京ディズニーリゾートで行うのかどうかについても、全て実行委員からの意見を聞いて行っている事業である。今回の実行委員世代は、高校2年生の3月からコロナの影響を受けて、卒業のときにも進学してからも、なかなか集まることができなかった学年ということで、仲間を大切にしたいという実行委員の思いがあった。その中で、何かみんなで一緒にできるものを作りたいという意向があり、今回のダンスという形の企画が浮かび上がった。今までにない企画ということで、オリエンタルランド社にも協力していただき、このダンスの振付もつけていただいたという状況である。

鈴木教育長     代表の人たちが自分の誓いを述べるのではなく、参加してきたみんなが主役だということを意識したいという考え方はすごいと思った。あの

子たちは、高校3年のときにコロナ禍になってしまい、受験も不安だった中で、ようやくこれができたということで、今、生涯学習課長が説明したように、仲間を大事にした。

宮澤委員 緊張感もあって、ああいう朗らかなところもあってよかったという感じはそこから来ているのだと思う。

吉野委員 私も楽しいひとときを過ごさせていただいた。話もなかなか上手だったし、後でテレビを見ていたら、仲間がどうしても私たちは大事なのだということを述べていたので、そういう意味でこれをやったのだなということがよく分かった。それから、いろいろなインタビューの中で、僕は教師を目指しているという男の子が出た。すごく頼もしく思い、これから頑張ってもらいたいと思った。

それからもう1点、年末の新聞で、去年、教師を辞めたという人の中で精神障がい原因として一番多かったとあった。教師になってすぐに1年生の子を持たされて、学級崩壊になってという話が例として出ていた。私の病院に来る子ども達を見ていても、なかなか言うことを聞かなかったり、親も怒らなかつたりという様子を見る。このような状況が広がっていくと、学級崩壊も起きてしまうなど感じることもあるので、先生だけでなく、親の姿勢も大切なのだと思う。

鈴木教育長 ありがとうございます。浦安市も病休の先生が増えている。

宮道委員 私からは3点である。

1つ目は成人式であるが、いつもと違うような成人式だったというのが第一印象である。それが、今あった話なのだと思うが、私が思うに、自分たちの意見を、そういったところでしっかりと発言して、それを実行していけるということ、そこが立派だなと思った。宮澤委員からもあったように、いつもと違う形で行うということはチャレンジだったと思うし、しっかり大人数の前であれだけ堂々と話ができることもすごいな

と思った。浦安の子ども達は本当に立派に成長してくれているのだと実感した次第である。担当部局の皆様も、本当にお疲れさまでした。

2つ目は、年末にニュースで知ったことだが、日本の平均寿命は80歳を超えており、その中で未婚の男性だけ、中央値が、66、67歳だという話だった。未婚の女性や既婚の男女は80歳近くまであり、そこに10歳以上差があるということ、国のデータを分析したら分かったということだ。死因としては、がんなどで亡くなるのが高齢の方には多いと思うが、それが未婚の男性では少なくて、糖尿病などの要は生活習慣病ということだった。それで早く亡くなってしまいう傾向があるという話があった。

やはりこれは食生活が影響してくるのだと思うが、幼いときからの生活習慣で、しっかりとした食を取りましようということ、各学校だけでなく、例えば、給食センターが献立のときに、そういうデータで事実を教えてあげるとか、婚姻は自由であるけれど、今、少子化で未婚の人も増えていると思うが、この辺りの問題をどう考えるかといったことを、中学生ぐらいになったら、総合の時間で議題にしたりして、データを見て、みんなどう思うかといったことを考えられるようなことも必要なのかもしれないと思った。

3つ目は、インクルーシブ教育についてで、国連から日本の特別支援教育の在り方は、健常の人と分けているということで勧告が出されていた。浦安市も特別支援学校の誘致を進めていると思うが、例えば、ファーストステップとして「特別」という言葉を取って「支援教育」にするとか、表現上のことではあるが、ネーミングを考えてみるというのも、どうかなと思った。また、もう一步進んだところを求められていると思うが、学校の先生が、若いときに特別支援学級の担任をする機会をつくりながら、もしくは、働いているときに、大学に行って資格を取れるような、キャリアの幅を広げられる機会をつくってあげられる仕組みといったことも、もしかしたら今後考えていかないといけないのかなということも思った。

現場の先生は、保護者も社会も変わっていく中で、子ども達に接して

頑張ってくださいっていると思うが、その辺りも含めて考えていかないといけないと思った。

鈴木教育長     ありがとうございました。最後の特別支援教育については、私も十何年前、学務課勤務時代から特別支援学級の担任は誰でもできるように、普通の学級の担任と同じ感覚で、2年たったら特別支援学級の担任として行ったり来たりできるようにしたいと校長会議などで言ってきた。今だんだんそうなりつつあるなと思う。ようやく国も、人事面で「管理職は特別支援学校の経験をしたり、あるいは特別支援学級の担任をしたりということ」が義務づけられつつあるので、緩やかに変わってきていると思う。

一方で、吉野委員が話したように、一人一人をとということがこれからもキーワードとなるので、それに対応していけるような環境づくりをしていかないといけないと思った。ありがとうございました。

それでは、議事の第7. その他に移るが、本日の上程はない。

以上で令和4年度浦安市教育委員会1月の定例会を閉会する。

閉       会     (午後3時45分)